

# 行雲流水

No.202 令和4年4月18日発行

学級経営は「長期戦」、持久力が必要だ

校長 寒河江 正人

さて、「**黄金の一週間**」が終わった。

どのクラスも**いい緊張感、やる気、勢い**に満ちている。

「**スタート**」は、ほぼ差がない。しかし、学級経営は「**長期戦**」だ。**持久力**が必要。

年間を通して、毎朝、すべての教室を見回っていると「**あること**」に気付く。

たとえば、その一例が「**朝の黒板**」。

見ていないようで、生徒はしっかりと見ている。読んでいる。

さらに、他のクラスの子が、自分のクラスの「**担任の言葉かけ**」と見くらべている。

目立たないところでもがんばっている生徒の「**働きを認め、感謝する**」担任の言葉かけや

「**いい取り組みを具体的に例示し、認め、ほめてくれる**」担任の言葉かけは、

生徒一人ひとりの「**喜び**」「**希望**」「**やる気**」につながる「**好循環**」を生み出す。

大人だって、子どもだって、ちゃんと見とって、認めて、ほめてくれたら「**うれしい**」。

本来、人は「**より良くなりたい**」という「**願い・心**」をもっている。

だから、「**がんばっている姿**」「**良い取り組み**」は、自分の模範にして、まねしたくなる。

だから、

机・イスの整理整頓が**少しずつ少しずつできる**ようになる。

掲示物がはがれたままということもない。ゴミが落ちたままということがない。

様々な取り組みの「**質・量**」が、提出物の完了が、**少しずつ少しずつ向上**してくる。

**決して派手さはないが、居心地のいい落ち着いた空気感**がただよう学級環境になってくる。

一方、

「**厳しさ**」と履き違えた「**高圧的**」「**力任せ**」「**いやみなダメ出し**」は、生徒が育たない。

たとえ最初はうまくいっても、次第に麻痺し、誰も見なくなり、何も感じなくなる。

期限が守れない教員ほど、生徒に「**提出物の期限厳守**」を借金の取り立てのごとく強いる。

**前者は、生徒が着実に育っている。つまり、「**担任力**」(学級マネジメント力)がある。**

後者は、生徒が育ちにくい。だからこそ、学級経営は「**長期戦**」「**継続は力なり**」なのだ。